

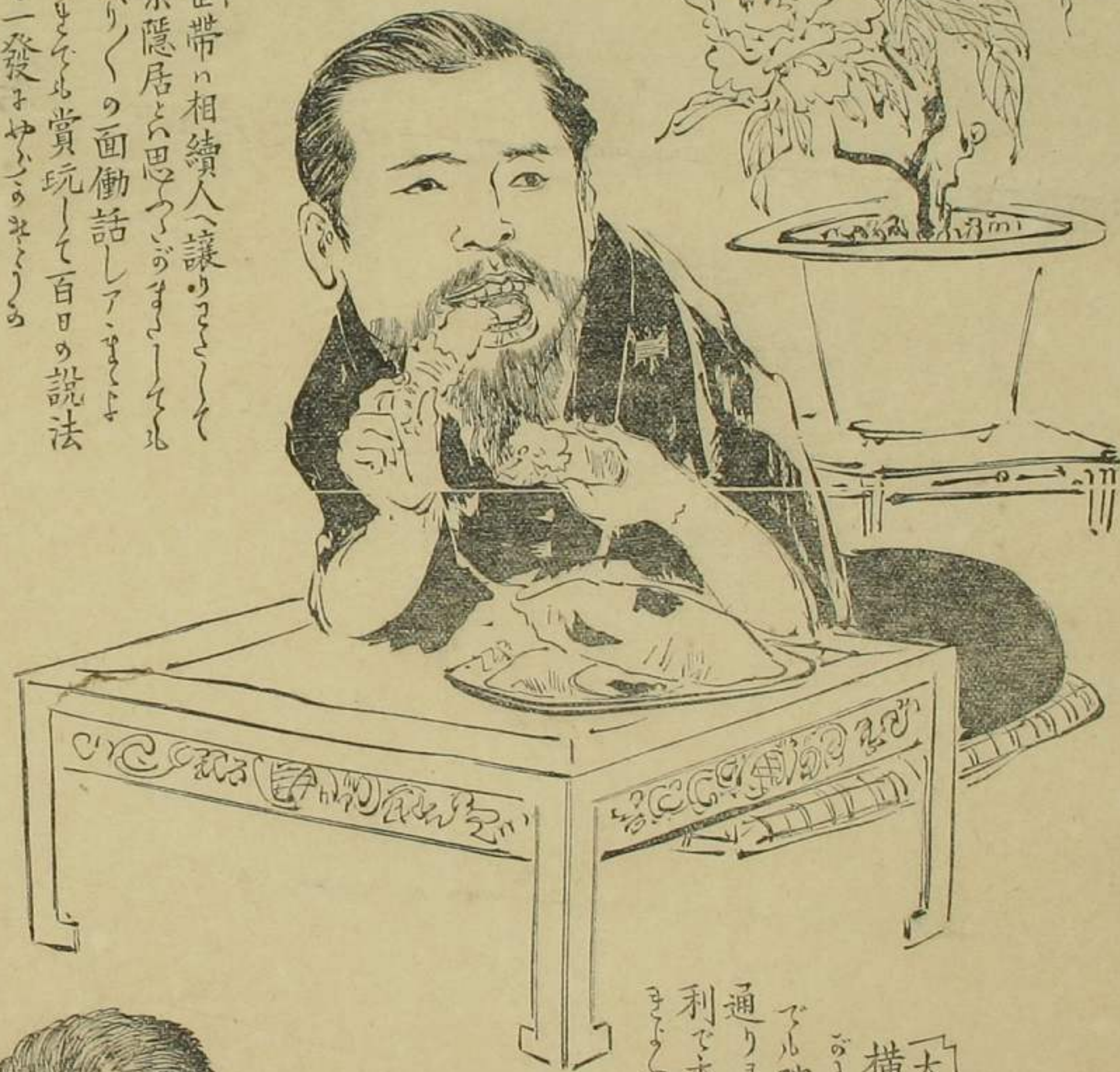
政論第二二百二十八號附錄

日 曜 日

「近頃の己を達摩のトクによ
世間を批判して居るもの
思へソレ金としかけりかの大
般石もあつてと處はころり
ふむむなるもの



「世帯の相續人へ譲りて
樂隱居と思ふもの
残りくの面働話してア、ま
あまも賞玩して百日の説法
を一發子やうにせよ



「大関のいせも欄外の
横綱とく己を負ふ
ふまの性分鶏も寫
る腕力でもこまの
通りイヤ、是う刀の目
利で本阿弥をばしそく
まき



65
60
55
50
45
40

いそり欄外の
く已まも負ふ
性分鶏も鷹
すんこきあひの
走らぶ刀目
はげしく

「黒幕のゆりくりかど言のきこし
わの事彦山なやも上つて天
狗道の修行でもふらふら
山ま己も縁があるも此絶頂
うと堂島が見てあはれ

「釣りを垂まを此の節
いよ手つ込んと細工を
あんと此の塔を今あし
最中出来上りつる評判を頼む



発行人 赤澤繁吉
大磯 六
印刷人 赤澤繁吉
發行所 東京市京橋區日吉町十六番地
政論社

内海刀